

栄光

説教・「神の憐れみ」	岸俊彦牧師……1
特集・花の日に よせて……………	2
追悼・ 郡司道子姉……	5
新刊紹介……………	5
説教・「石が叫び だすほどの賛美」	中村謙一教師…6
CS新教師紹介…7	
長老のファイル…7	
牧師の書斎から…8	

『神の憐れみ』

申命記7章6節～19節

ローマの信徒への手紙11章25節～32節

岸 俊彦

説教

「この秘義を知らずにいてほしくない」(11・25直訳)とパウロは語ります。「秘義」とはギリシャ語のミステリオンです。「奥義」秘められた計画」と訳されてきました。人間の目には隠されている不思議な真実を意味します。特別な賜物を持った人や修行を積んだ人だけが知ることのできるのがミステリオンです。

しかし、キリストの福音は秘義ですが、誰にでも伝えられ、与えられる秘義です。誰もが知るべき秘義です。神の御心を伝える秘義を知って、信じて生きることができるからです。

神の秘義は、アブラハム以来イスラエルの民が「宝の民」(申7・6)として選り召しだされたこと

によって示されました。もつとも

小さい(数の少ない)民を愛する神です。神の民が背信の民であっても、神の愛が揺らぐことはありません。「宝の民」を愛するからこそ裁きました。滅ぼすためではありません。救うためです。彼らが神を信じる民に変わるためです。

異邦人の使徒パウロがキリストの福音を宣べ伝えているのにもかかわらず、イスラエルの民は受け容れませんでした。自分たちが待ち望み救い主としてキリストを信じてませんでした。しかし、パウロが直面したこの困難な現実の背後にも神の秘義(救いの計画)があります。

現にイスラエルの民が拒絶した福音は、異邦人の間に広がりまし

た。パウロのように神が残してくださった少数のユダヤ人キリスト者の伝道によります。「後にいる者が先になり、先にいる者が後になる」のです(マタイ20・16)。

神の選びを誇ったイスラエルは、旧約聖書に預言されたキリストを信じることに関して異邦人の後になりました。異邦人キリスト者が、イスラエルの民に優越感をもった

り、自らを誇ったりしたら同じように後回しにされるでしょう。

イスラエルの民に注がれた神の愛は揺るぎないのでから、終わりの日、すべてのイスラエルがキリストを信じるようになるとパウロは語ります(11・26)。まったく予想できないことです。不可能なことです。私たちの知恵をはるかに越える神の秘義です。

しかし、「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」(1コリント1・25)のです。十字架のキリストに示された神の愚かさが人間の賢さを打ち砕きます。

十字架のキリストに示された神の愚かさ、神の恵み、神の秘義から自らをふりかえるのです。異邦人キリスト者は、かつて神を知ら

ず、不従順でした。無関心でした。それにもかかわらず、今はキリスト者とされています(ローマ11・30)。ただキリストによって示された神の憐れみによります。

同じように、終わりの日、頑ななイスラエルも神の憐れみによってキリストを信じるようになります。これが神の秘義です。

「神はすべての人を憐れむために、すべての人を不従順のうちに閉じ込められたのです」(11・32)。

神の憐れみとは「私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださった」私たちに對する神の愛です(5・8)。神の敵(5・10)、罪人にさえ、神の憐れみは注がれています。

私たちは不従順のうちに閉じ込められているというより、人知をはるかに越えた主イエス・キリストの憐れみを知らされ、いついかなる時も主の憐れみに閉じ込められているのです。

閉じ込められているでは息苦しいかもしれません。主の憐れみの中においていただいているから、不従順な私たちは悔い改め、信じ、生きる者に変えられるのです。



花の日によせて

5月14日は子どもの日・花の日礼拝。

色とりどりの花が咲く季節に、子どもたちが花で礼拝堂を飾り、
礼拝後にお世話になった方へ花を持って行きます。

あなたが花を贈りたい方はどなたですか？

自分ならどんな花をいただきたいですか？

お花と我が家の男子たち

石室優子

「女性よりも男性の方がお花が好き」。この説を初めて聞いた時、ほう、そんなものだろうか、と思いました。しかしよくよく思い返すと、父方の祖父は庭中を季節の花々の園にしておりましたし、母方の祖父は、私が娘時代に耳にピアスの穴を開けた途端、小さなルビーの小花型ピアスを贈ってくれました。

父は退職後、突然庭の手入れに情熱を燃やし始め、私が実家に帰る度に草花が増えていて驚きます。今では「何の花が咲いているかなあ？」と実家に帰る楽しみとなっております。

義父の仏壇にいつも花を絶やさぬように生けているのは夫ですし、プランターに寄せ植えをするため、園芸センターでいつもキョロキョロしているのも夫です。我が家に限ってはありますが、断然男性の方がお花が好きなのです。

父と夫が上司と部下のような？
独特の空気感で、園芸センターでああでもない、こうでもないと言いながら購入する花木を選んでいる光景を、遠くからスマホで隠し撮りするのが私は大好きです。

うちには木を植えることができないので、夫は一目惚れした小さな花木を購入し、私の実家に植えてもらっています。「自分の木」として成長を楽しむにしています。実がなつて食べることができて、かつ美しい花が咲く木が大好きなようです。最近ではアーモンドの木がたわわに実をつけ出しています。

義母も母も私も、男子チームの手入れした花々を眺めては、「綺麗ねえ」などとのんきにしております。この原稿依頼をいただくまで特に気に留めたこともありませんでしたが、いつものんきに愛でるお花がそこにある、そのことこそが、とびきり素敵なお花の贈り物なのだと気づいたのです。



全て神様のなせる業

桜岡民枝

今年も2月、三島プラザホテルで私のニット作品展があった。毎回初日には姉から大きな花束が贈られてきた。今年はない。姉が昨年8月に亡くなってしまった。1週間の作品展の間、うれしそうに、3回も4回も会場に来てくれていたのに。今年は私が前日大きな花束を持ってお墓参りをした。今回の三島の作品展もおどろく程、多くの来場者。幸せな時間を過した。姉のことも多くの方々と話すことが出来た。

3月末の今、世田谷の家のまわりには多くの花々が咲いている。となりの神社、お寺、小学校の桜は満開。庭に目を移すと白い桜が菜の花と共にきれい。赤いボケ、クリスマスローズ、藤だなのつばみも大きくなって来た。藤だなは祖父母の気持、その他の花々は和子さん、理代さんの気持。みんなの温かい気持の重なりで我家の庭

が豊かに咲いている。

7月の富良野はこれまた、大好きなラベンダー。毎日のランニングコースにある。途中の農家さんの庭にも。観光客のあまり来ない丘の上に素晴らしいラベンダー畑。その他の花畑も美しい。大麦畑の風になびく姿は毎年、動画を撮る程。オーナーの御婦人とも仲良し。毎日、数名の作業員の方々がいてねいな手入れをしている。ランニング途中での立ち話も楽しい。

そうそう、富良野の桜は5月。庭にある桜は小さなかawaii桜。数年前に植えたバラも毎年花をつけてくれる。家の中には沢山のドライフラワーがある。道で拾って来た花を夢中でドライにする。いただいた花もドライにする。ログハウスにはドライフラワーがよく似合う。ドライフラワー作家の作品は、また、一味ちがう。

家のまわりの木々は20年経った今、本当に大きく成長してくれた。富良野にも木々と花々で時が豊かに流れている。

全て神様の成せる業。感謝。

花と私

原 知子

花の美しさや存在価値に気づいたのはいつだっただろう。大学4年の時に新たな息抜きを探していて、ふと自分で買った花々を活かされるようになりたいと、一日講座を受けたのがそのきっかけか。

もともと色彩には敏感だった。祖母の家に行くとき色の本を開いては好きな色を発掘していた。色は和名記載だったので、色名の由来となる花の説明にも何となく触れていたように思う。また、在英時に四季折々の花が咲く自宅の庭やハンギングバスケットで街中が彩られている様、各地の城や屋敷の庭園を見ていたので、知らず知らずのうちに花に導かれていたのか。

花に興味を持った後のスマホのカメラロールは上手く活けられた時の花だらけ。見返すとどうも大振りの花と、色は群青から紫が好ましい。蕾の状態から上手く咲かせることができた芍薬、深い群

青色の大きな紫陽花、秋に登場する濃淡様々なマム（洋菊）、春先のヒヤシンス。疲れた時に見返すと、それだけで元気になる。

ただし、保存してある写真が思ったよりも少ないのは、自分の個性を放とうと必死にこちらにアピールしてくる花々に対し、当方の花活けの技量が足りないのか、スマホでの写真撮影に難があるかのどちらかだろう。年数に比例せず不出来なので菌痒い。

もう一種類、大量にカメラロールに存在する花の写真は、桜。毎年撮り溜めている砧公園の桜である。お花見の時期に、父と出かけ、芝生に座つてのんびりと会話をする時間は、とても贅沢で豊かだ。それを思い出せるように、帰る前に暫し撮影した桜たち。どんな話をしたか、何を思ったかsまで閉じ込められたら、とも思う。

最後に、年一度、自分に贈る花は、凛と生きたいという思いを込めて、真っ白な大きな百合として。見る度に、気持ちの新たな支えと導きのうちにあるということ

花のちから

原 真友子

私はよく、友人への誕生日プレゼントに花を添えます。友人をイメージした小さな花束や一輪の花をお花屋さんで買って添えるのです。そうすると、贈り物が一段と華やかで素敵になり、友人にも喜んでもらえます。

さらに私は、自分自身へも花を買います。自分には花束ではなくポット苗です。夫と住むアパートには南に面して十分なポットスペースがあり（それが新居をここと決めた大きな理由の一つ）、沢山の鉢植えを並べているのです。今現在（4月中旬）はこの場所です。プリムラ、ビオラ、アルメリア、イチゴなどが色とりどりの花を咲かせています。これらの水やりから私の一日が始まるのです。花の力は不思議で、色とりどりの彼女たちを見ると自然と気持ちが明るくなります。近頃は家に友人を招く機会も増え、その度に友人たち

が花を見て喜んでくれるので、ますますお花のお世話に精が出ます。鉢に植わった花たちは私だけではなく、来てくれた友人の心も華やかせてくれます。夫もふと窓辺に目をやって、「綺麗だね」と言ってくれます。時折動くお腹にいる赤ちゃんも喜んでくれているような。

そのため私がどなたかにお花をいただくとしたら、育てられるお花が嬉しいです。一時楽しむ花束も勿論嬉しいのですが、育てながら花の様々な表情を楽しみ、訪れてくれる友や家族までも巻き込んで慈しむことが出来る鉢植えはより一層嬉しく感じます。そうは言っても、そろそろ鉢植えが溢れてきてお世話が追いつかなくなってしまういそぎですが。

考えてみれば、物言わぬ花にこれ程パワーを貰えるというの不思議なことのように思います。たとえ足元に咲く野の花であつても、ふと気づくときとても綺麗で、心が温かくなる。神さまがお創りになったものが与えてくれる恵みとその力強さに、改めて感謝したいと思います。

子どもの日・花の日によせて

瀬倉昭恵

この時期、沢山の花に囲まれ、外に出るとウキウキ、ワクワクします。「あなたはどんな花が好きですか？ 贈りたい相手は誰ですか？」と質問されて、すぐに答えられる人は幸せだと思います。私にはすぐに思い当たる人はいないから、でも好きな花は沢山あります。

子どもの頃から百合が好きでした。幼少期を長野で過ごした私には、心に残っている花が数々あります。特に山に咲いている鬼百合や白い百合の他に、彼岸花など。子育て中もベランダに多くの花を植えて楽しんでいました。

世田谷に越してきてからは、区報『せたがや』にバラの育て方講習の案内があつて、それに参加しました。学びの時を与えられ、学んだ通りに世話をすると、それまではすぐに枯らしてしまっていたバラが枯れることなくすくすく育ちました。それ以来、バラの虜に

なり、珍しい品種を見かけると理性を失い連れて帰り、娘に「また買ったの!？」と叱られる始末。講習で学んだ通りに挿し木して育てたものが花を咲かせた時は、喜びに満ち溢れ、神様に感謝です。そうやっていくうちにミニバラを含めて10鉢に増えました。クレマチスや草花の寄せ植えも加わって、駐車場の後ろまで花でいっぱいになりました。どの花も好きですが、特に香る花が好き。バラや百合の甘い香りに癒やされています。8年前に今のマンションに越してきましたが、ここは庭とは名ばかりの猫の額より小さな庭です。それでも、高齢になり、体力的には丁度良い広さです。これも神さまのなされる業と感謝です。

最近はお手紙に花を描くことが多く、礼拝後に教会でいただく花は香りよりも描き易い花へ。それも感謝です。花の手入れが大変になりバラも10鉢となりましたが、多肉植物を教会の姉妹や近所の友にいただいて、何種類か育てています。ほぼ雨ざらし状態の中、ピーンと伸ばした枝の先に咲く花に愛おしさを覚えています。

追悼

日本文化を愛した気丈な祖母

故・
郡司道子姉

2023年2月19日午後6時59分、祖母・郡司道子は94歳の生涯を終えました。生前お世話になりました皆様へご連絡が遅くなりましたことを、心からお詫び申し上げます。

祖母は夫を亡くした後、50代から物書きを始めまして、私が物心ついた時には書斎に本をびっしりと並べ、事柄を調べて書き起こす文筆家をしていました。中でも特に力を入れたのは日本文化、歴史に纏わる出来事を詳らかにすること。60歳を過ぎてから大学講座を受講し、歌舞伎役者にインタビューした内容を聞き書き話として出版。幕末の大老、井伊直弼の墓豪徳寺を調べ、近くに政敵が葬られていることを見つけ出す。晩年も執筆活動を続け、老人ホーム入居直前に小説を出版。知的好奇心

に溢れた人物でした。私が祖母と暮らしていた時の楽しみは、2ヶ月に一度の大相撲をTV観戦すること。強かった千代の富士、愛嬌たっぷりの水戸泉、男前な寺尾と霧島、そして存在感抜群の小錦。30年前の力士を未だに私が覚えてるのは祖母のお陰でした。

若くして夫を亡くした祖母は、気丈に振る舞う一方、寂しさから来る愛情への飢えを隠さない人でもありました。強い意志で常人には為し難いことを達する一方、様々な困難に直面することも多々ありました。喜寿を迎えた頃から体調が優れない時が多く、トラブルもあったことから、心体ともに困難な辛い時期が続いておりました。

そしてコロナ禍、昨年末に体調が悪化。面会が厳しく制限される中、家族と会いたいという強い意志で、周囲も驚く粘りを発揮。最後はひ孫にも会うことが出来、そして見守られながら旅立っていました。人生の半分を一人で過ごしていた祖母は、今頃45年ぶりに祖父不二夫と何か話をしているのかもしれない。(孫・郡司高久)

Book

新刊紹介

私のことば体験

松居直 著

(福音館書店)

『コドモノクニ』、『キンダーブック』、『ちいさいおうち』……。幼い頃の記憶の中で、また子育ての中などで手にされたことはありませんか？ 今回ご紹介する本は、そうした本たちとの出会いから、ことばへの感覚を開かれた著者松居氏が少年・中学、戦争時代をはさみ、成人へと歩む中で気づき、伝えたいことを読者に丁寧に目の前で語るように著された本です。

福音館書店の創立70周年記念として発刊され、その書店名からくるキリスト教とのつながり、著者松居氏との運命的な出会い、絵本、児童書出版という今に至るまでが繋げられ語られていくのです。私には、この文字による語りが心地よく聞こえてきました。なぜなら松居氏は短大時代の児童文化の先生で、授業では毎週必ず絵本の読み聞かせをしてくださり、その穏やかな少し京なまりの声が耳に残

っていたかもしれません。

キリスト教との繋がりは、福音館書店がカナダのメソジスト教会の宣教師の北陸伝道のために創られた文書伝道の書店であったこと、次に松居氏が同志社大に入學、聖書と出会い、毎日の礼拝で聖書朗読を聞き、「初めに言があった」(ヨハネ1:1)という聖句に惹かれ、『生きたる』ということを考えた時ことばが非常に大切だと感じ始めたとあります。

今、ことばが貧しくなっているが、子どもの教育、子どもを育てることの鍵はことばだ、それで子どもたちの本を作り、ことばで子どもたちを抱き生かさなくては、と氏は熱く語り、絵本作りが進められ、ついには赤ちゃんにも絵本をと、その可能性を海外に求めていられる姿には驚くばかりでした。安野光雅氏の挿絵も味わいがあります。爽やかな季節、この本との出会いを体験してみませんか？

なお、この本は図書委員として長く奉仕され、読み聞かせを続けてこられた故神原温子姉が「教会図書に」と選んでくださった最後の本となりました。(千葉一恵)

説 教

『石が叫びだすほどの賛美』

ルカによる福音書19章28～44節

聖学院幼稚園・小学校チャプレン 中村謙一

メシアであられるお方、神の御子主イエス・キリストのエルサレム入城は、古い契約が守れず腐敗し戦争で滅びへと向かう当時のユダヤとエルサレム神殿信仰を、新しい契約によって教会を中心にした十字架と復活の主イエスへの信仰で人間の魂を再建することを、つまり、罪を赦し神のみ国へ導き救済する神の決意を示していました。

一つの国が戦争によって滅ぶことは大変なことです。それは一般市民を巻き込む罪深いことでした。41節と42節には「エルサレムに近づき、都が見えたとき、イエスはその都のために泣いて、言われた。『もしこの日に、お前も平和への道をわきまえていたなら……しかし、今は、それがお前には見えない』」と書かれています。主イエスがエルサレムを見て涙したのは、ユダヤ戦争で神を礼拝する場所を失い、これから苦しみ死んでいく多くの人々の命を思ったからでし

た。しかし、争うことをやめない、罪深い人間たちを前にして絶望ではなく希望を与えようと、主イエスは、神の御子の尊い命を献げることによって、全ての人間の罪を赦し万物をも含めて贖うことをされようとしていました。このよう

なお方を私たちが心にお迎えする時に、教会にとつて成すべき大切な2つのこととは、御言葉を伝え、礼拝で賛美を続けることです。

このために主イエスは子ろばと石という万物を用いました。今では教会を、私たちを、お用いになられます。まず、主イエスは御言葉を伝えるために子ろばを用いました。子ろばは、ゼカリヤ書9章9節の中で、「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者、高ぶることなく、ろばに乗って来る。雌ろばの子であるろばに乗って」と書かれています。パレスチナでは平和の使者がろばに乗ります。子ろば

は平和の王である主イエスをエルサレムへ運ぶみ業に用いられました。

教会は、この子ろばのように用いられます。私たちがこの子ろばのように主イエスを運びます。主イエスを運ぶとは、私たちが主イエスの十字架と復活の和解の御言葉を、人々の心に伝えることを意味しています。私たち教会は、主イエスの平和の福音伝道のために用いられます。それは、私たちが人々に御言葉を伝え、教会の礼拝へその人を誘うことです。

伝え誘うことが初めてであつても大丈夫です！ まだ誰も乗ったことのない子ろばを主イエスは用いられたからです。主イエスは喜んであなたを御言葉を運ぶことに用いてくださいます。34節で「主がお入り用なのです」と、主はいつもあなたに語りかけています。

賛美することも教会にとって大切なことです。主イエスははっきりと40節で告げています。「言っておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす」。ここで、主イエスは石を用いて、キリスト賛美は絶対に黙らせることはできないと宣

言されました。弟子のシモンに岩（ペトロ）という名を与え、その上に私の教会を建てると告げられていたのは主イエスご自身でありました。その後、本当に石が叫び出しました。教会がペンテコステによって誕生し、岩の上に、つまり、キリストという岩盤のような岩の上に、その岩から割れた小さな石の群れであるペトロをはじめとするイエスの弟子たちの上に、聖霊が注ぎ、教会が本当に生まれ、賛美を始めました。そして、今では、キリストは世界中の教会で賛美され地球を周って終わることがありません。太平洋戦争中、大日本帝国が憲兵を経堂北教会の礼拝に送って弾圧をした時も、経堂北教会は決して黙ることなく主イエスを賛美していました。それはまさに石が叫び出すほどの賛美でありました。

私たちは絶対に黙りません。私たち教会は主の御言葉を人々に運び、キリスト賛美をやめません。今朝は棕櫚の主日に教会が成すべき2つのことを確認することができて、主の御名を心から賛美いたします。ハレルヤ！

CS新教師紹介

CS教師に就任して

牧内 歩

この度正式にCS教師として奉仕させていただくことになりました。去年からお手伝いとしてすでに活動に携わり、生徒たちとの関わりや説教を任せてもらうことを通して、CS教師として教会に通う充実感を感じています。

私も物心ついた頃からCSに通っていました。正直なところ、楽しみだったのはイベントだけで、毎週早起きをして礼拝に来るのは面倒だと思っていました。

しかし、教会に来ると気心知れた友だちに会えます。礼拝と分級の後、皆で遊ぶのが楽しかったです。年上のお兄さんお姉さんに相手をしてもらうのが好きで、同い年の友だちと遊ぶ時には感じられない刺激やワクワクがありました。

中学生までは、受洗を考えたことなく教会に通っていましたが、中学3年生の時に受洗について意識するようになり、そこから初めて主日礼拝に出席するようになりました。信仰が与えられ、高校1

年生の時に受洗しました。振り返ると幼児の頃にはすでにCSをきかけとして教会全てが自分の安心できる居場所になっていました。

CS教師として2回説教をさせてもらいましたが、自分で調べて勉強し、伝える神様の福音は、より深く自分に染みることを知りました。この言葉を子どもたちに伝えるのだから、まずは自分が改めなくてはと思わされます。子どもたちは熱心に話を聞いていますし、CSにとっても期待してくれているのが伝わってきて嬉しいのです。

今年度のCSの年間テーマは「イエスキリストの弟子になろう」です。私も弟子の1人として、CSに通う子どもたちが教会に居場所を見出せる環境を作り、伸び伸びキリストを学べる場にしたいと思っています。子どもたちの期待に応えるべく精一杯務めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、教会員の皆様を支えられてCSは活動できしており、深く感謝申し上げます。これからもCS活動のためCS指定献金もよろしくお願いします！

長老のファイル

周囲では、コロナ禍からかつての日常が戻ってきた感があります。この原稿を書いているのは教会総会の前で、これが皆様に配布される頃はGW（ゴールデンウィーク）の最中ですが、おそらく、今年のGWはどの観光地でもすごい人出になるのではないのでしょうか。

我家の近隣の豪徳寺でも観光に訪れる外国の方々が境内の販売所で行列を作り、名物の「招き猫」を買い求める姿を見るようになりました。「Sold Out」の紙が貼られた招き猫もあります。

教会内では引き続きマスク着用ですが、礼拝の受付簿はコロナ前のように、皆様にご自分でお書きいただくスタイルに戻りました。コロナの最中は受付担当の長老が受付簿を記載していたのですが、よく存じ上げている方でも咄嗟にお名前が浮かんでこないことが多々あり、困りました。教会員名簿や写真名簿をめくり、恐縮し、冷や汗を流しながらお名前を伺うことを繰り返していましたので、

少しほつとしています。

コロナ禍は教会の活動にも大きな制約となり、教会総会資料にもありますように、昨年度の伝道・集会費や教会学校費、行事費等の諸費用は予算比大幅な未達となりました。伝道・集会費は26万円です。2021年度を上回りましたが、コロナ前の2019年度の75万円の三分の一の水準です。

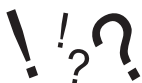
2023年度はコロナ禍の日々からの脱却により、諸活動の活発化が見込まれます。予算は前年度よりも111万円、少なくなっていますが、要因としては、備品・修理費を実績に合わせ120万円減じたもので、伝道費等諸活動に関する予算は減じていません。

収入では、2021年度迄、月定献金は一千万円超過でしたが、2022年度では964万円でした。月定献金の口数が126口となり、コロナ前の2019年度の152口からは26口の減少となっています。

収入面では苦しい状況が続きますが、諸活動再開に向け、引続きお支えくださいますよう、お願いいたします。

(門田浩一郎)

個人消息



牧師の書斎から

4月はずがに忙しい日々でした。毎年のことながら教会総会資料をまとめ、総会案内など、総会の準備を進めなければなりません。長老会は決算を確定し、総会に向けて資料を用意し、協議し、議案を整えます。それらはある意味裏の仕事です。大事なのは受難週の集会やイースター礼拝です。その準備に努めなければなりません。予想外だったのはイースター礼

掲示板



- 子どもの日合同礼拝
5月14日(日)午前10:15
- 復活節第7主日礼拝
5月21日(日)午前10:15
説教 新井美穂牧師(伊勢原教会)
- 合葬式 5月27日(土)午前10:30
於 春秋苑教会墓地
- 聖霊降臨日礼拝 5月28日(日)午前10:15
- 東京教区総会 5月30日(火)午前11:00
於 北区赤羽会館
- 聖霊降臨節第3主日礼拝
6月11日(日)午前10:15
説教 種房惇子教師

編集後記



▽バラの花が好きで結婚式のブーケはクリーム色のバラでした。最近のお気に入りには神代植物園で買ったイエローピンクのバラ。早く咲かないかな。(酒井)

「栄 光」2023 年 5 月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧 師：岸 俊彦
編 集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

拝の出席者が100人に届かなかったことです。昨年は116人の出席者でしたから、130人の出席者を見越して準備しました。聖餐も不足した場合に備えて、いつもは6皿なのに7皿準備していました。それに比して教会学校は親子連れで礼拝堂の半分が埋まるほどの出席者でした。プログラムを急いで増刷しました。

ともかくも共に主イエス・キリストの受難と復活を覚え、主の恵みに感謝して賛美できたことは嬉しいことでした。

イースター朝の墓前礼拝は、今年も行いませんでした。そのかわり、墓誌を2基増設したことに合わせて、合葬式を5月27日に行います。その日以降納骨される方は新しい墓誌に彫刻されます。

カロートはすでにスペースがありません。そのため33のご遺族に合葬のお願いと問合せの手紙を出しました。連休明けが返信の期限です。今のところ34のご遺族について合葬の了解を得ることができました。これで今後10年間納骨スペースが確保できます。

ご遺族の居所不明で戻ってきた手紙が1件。ご遺族の代替わりについてのお知らせが1件。毎年11月の召天者記念礼拝の案内を出していますが、この半年間にも変化があります。

墓地ができて42年。納骨者は128人。世代が代わっても教会との繋がりが続いていることは嬉しいことです。ご遺族に信仰が引き継がれることが一番の願いですが、主に任せるばかりありません。

合葬式が主の恵みに満たされたものとなりますように。(岸 俊彦)